

日本 TA 協会第 33 回大会 プログラム詳細

2 日目

～2 日目のワークショップはどちらかをお選びください～

6/6 (日) 10:00～12:00

◆初心者向け ワークショップ②

「相手に届くストローク～つながりの視点から～」

世界中が COVID-19 の脅威にさらされる中、ストロークの大切さを実感しないという日はないのではないのでしょうか。直接会って、触れ合うことが当たり前のこととして行えない今、私たちはどのようにしてストロークを交換しているでしょう。「相手に届くストローク」ということを切り口に、参加者の皆様とご一緒にストロークについて学んでいきたいと思っています。

講師：関 真利子

成城大学学生相談室カウンセラー、CTA（心理療法）、公認心理師、臨床心理士

高校教師として 5 年勤めたところで、必要に迫られて大学院に進学、臨床心理学を学んだ。教師生活 10 年目の節目で、一度、教職から離れることを決意し、公立中学校の SC、複数の大学の非常勤カウンセラーなどを経て現職。繁田 千恵先生に師事して TA を学び、大学生に対するカウンセリング、ワークショップなどを実施、NPO 法人における教師、看護師、カウンセラーの方たちに向けた講座の講師を務める。

6/6 (日) 10:00～12:00

◆中級以上向け ワークショップ③

「関係性 TA と Co-Creative」

K.テューダーと G.サマーズが提唱している Co-Creative TA（共同創造 TA）は、関係性 TA に属すると主張されていますが、共通する部分もありながら、異なる性格もあるように感じます。私の臨床実践においては、その両方が大変役に立っています。当日は、Zoom で可能な形でワークショップをご一緒に創りましょう。

講師：島田 涼子

人間総合科学大学大学院教授、CTA（心理療法）、医学博士、公認心理師

大学病院心療内科を経て、現在は、大学で教鞭を執りつつ、週 1 日心療内科クリニックで心理士を務めています。大学では、主に臨床心理学、精神分析、TA を教えています。最初のスーパーバイザーは六角浩三先生、二人目が深沢道子先生、最後はヘレナ・ハーガデン先生でした。今は、どのように人生の残りの時間を使うか、考えています。私は何がしたいんだろう？と。